

新支部長に安藤ちかい氏

婦人会本愛支部

婦人会本愛支部の5代支部長に、安藤ちかい・大教会長夫人（写真）が中山はるゑ・婦人会長様より任命された。辞令は3月11日付け。本愛の婦人会支部長変更は、安藤くみ子前支部長の就任以来30年ぶり。新旧支部長の談話を掲載する。



練り合いを重ねて

新支部長談話

このたび婦人会本愛支部支部長に任命いただきました。一生懸命つとめさせていただきます。何卒よろしくお願い致します。任命を頂いた際、婦人会長様からは「婦人会は皆で話し合ったり練り合いを重ねたり、相談をすることが大切。一人で考えたり決めたりするのではなく、どんなことでも支部の皆さんと



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

年間活動目標

創立110周年に向かって

今日を陽気に。

おつとめ おたすけ ひのきしん

相談を重ねて、活動を進めていってください」とお言葉をお頂戴しました。このお言葉を胸に、これから支部の活動を進めていきたいと思っております。

むつみ会やよほる会は前支部長が若い会員の皆さんの育成の場として立ち上げたものと聞いています。子育て中の私自身も、会員の皆さんの声を聞かせていただきながら、皆が大教会や各教会につながるやすくなるような活動をこれからさらに広げていければと思っています。

また、5月20日には一昨年から中止していた第92回本愛支部総会を開催いたします。感染拡大の状況を見つつ、ご参加いただければ

幸いです。

女性の徳分としてお与えただけに「ぬくみ」「つなぎ」を生かして、自分の家族、職場の人、周りの方が日々を明るく過ごせるように、共々につとめていきましょう。

若輩ではありますが、大教会につながる皆様方の力添えのほど、重ねてお願い申し上げます。

会員に支えられ

前支部長談話

平成4年12月に中山まさ婦人会長様より任命を頂き、以来30年間支部長をつとめさせて頂きました。振り返りますと、先輩婦人会員の方々、大勢の婦人

会員の皆さまに支えられ、お守りいただいて今日までつとめられたことは、本当にありがたく、また多くのご迷惑をおかけしたことと反省ばかりでもあります。それでも、とても楽しい30年でした。

本愛支部につながる皆様には、まだ若い新支部長にどうかこれからも心をつないでいただこうお願いいたします。私自身も、親神様のご守護に感謝し、教祖の温かい親心をいつも胸に置いて今後も通らせていただきます。重ねまして、婦人会活動に携わるお一人お一人に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

大教会前会長 天理図書館長に就任

安藤正治・前会長は4月1日付で、天理大学附属天理図書館長、ならびに学校法人天理大学理事に就任された。

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



ある人が神様の存在を知り、教えを信仰するようになるきっかけは実にさまざまです。

私も含め、代々信仰している家庭に生まれ、気付けば信仰していたという人もいれば、親神様の不思議なご守護を目の当たりにし、その感動から入信したという人もあるかもしれません。安藤正吉初代会長の入信のきっかけは、そのどちらでもありませんでした。安藤家の信仰のきっかけを端的に言えば、それは「出直」だと言えます。このことについて考えてみます。

出直の日時を予言

初代会長様は、入信当時



のことを次のように振り返っています。「それまでに四男、三男と続いて二人の子供を亡くしました。下の方から次ぎ次ぎと二人の子を亡くし、

今度は次男がまた同じようにひどい百日咳をわずらいました。

人間というものは何事もないときには運命などということは決して考えないものでありまして——まして事業が順調にいつて成功しているのですから、本気で神様に頼るなどという気持はもてないものです。世の中はまあ大体自分の努力次

第、運次第——（中略）ところが今まで順風に満帆という順調なところへ急に二人の子供に死なれ、今また三人目の重患に見舞われましては、何という因果かと思うと世の中が何もかも思うようにならない、恐ろしい運命——ということがだんだんと感じられて参りました」（『信の生涯』）

人間の体は親神様からのかしのの・かりものであり、「死ぬ」とは「古い着物を脱ぐのと同じように」親神様に体をお返しすることと教えられます。そして自らの魂にまた新しい体を借りて生まれ変わってくる。だから私たちは死を「出直」と呼びます。

出直の形はさまざまですが、ある興味深いお話があります。明治15年に大阪で入信した林久右衛門（喜連分教会初代会長）という方の逸話です。

久右衛門さんは80歳のとき、「そろそろ身上を神様に

お返し申し上げる旬が来たで」と話し、家族に「何月何日にお返しするのが良いか」と尋ねたそうです。家族は困惑しましたが、本人は農作業が落ち着く「6月28日」を出直の日とし、「時間、夜の十時やで、用意する物は何もいらん」と告げました。そして、まさにその日のその時間、集まった家族にこれからも教えを守って通るように伝え、座ったまま合掌して目を閉じ、出直されたそうです。

死とは別れであり、誰にとつても悲しくつらいものです。しかしそれを「出直」と捉えらると、そこに働く大きな親神様のご守護を感じられるのではないのでしょうか。そのように捉え直したからこそ、初代会長様は子供の出直という何よりつらい出来事を、教えを歩む「きっかけ」とできたのではないかと思うのです。

4月のこよみ

入社祭

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

教祖誕生祭

18日 午前10時

天理教婦人会第104回総会

19日 午前10時30分

女子青年例会

24日 午前10時

本部月次祭

26日 午前9時

ほんあいOKEIKO

27日 午前10時

こはる会例会

28日 午前10時

全教一斉ひのきしんデー

29日

教理随想

言わん言えんの理を探る



今日十九日に
天理教婦人会総
会が本部中庭で
開催されます。

コロナ禍のため

代表者だけの参
加となりますが、

この旬に婦人会
創設の思召の一
端を考えてみた
と思います。

天理教婦人会

は明治四十三年一月二十八
日に創設されました。しか
しその日に突然誕生したわ
けではなく、遡ること約十
二年にわたる「胎動」の時
代がありました。

明治三十一年、「増野いと
身上願」のおさしづで、
：一時女、婦人会として
始め掛け。これ人間が始

め掛けたのやない。神が
始めさしたのや。：

(明治31年3月25日)

と、親神様は婦人会の創設
を強く促されます。人々は
このお言葉に驚き、特に婦
人の混乱と困惑は大きなも
のでした。その後、逐一神
意を仰ぎながら、思召に沿
う道を模索していくのです
が、当時は女性が表立って
活動することなど思いもよ
らない時代です。なかなか
神意を理解できず、一歩踏
み出すことをためらう人も
多かった状況が想像されま
す。それでも「互い諭し合
いと談じ合い」との思召を
素直に実行し、明治三十七
年頃にはおやしきを集まる
婦人の月例会も軌道に乗り、
地方の教会にも婦人の集ま

りができてきました。これ
らを統合して創設されたの
が天理教婦人会であります。

胎動の時代は政府からの
圧迫と干渉の時代でもあり
ました。それは内務省訓令
の影響によるもので、先人
は筆舌に尽くし難い多くの
制約の中で教えを実践し続
けてこられたのです。

また明治三十年代といえ
ば、天理教が一派独立のた
めの請願運動が続けられて
いる時代でもありました。
その動きの中で天理教校が
設置され、教典(明治教典)
が編纂され、全国に十の教
区が置かれるなど、教義と
組織面を整えようと苦心し、
奔走する最中に次のおさし
づがありました。

：外の錦より心の錦、心

の錦は神の望み。飾りは
一つも要らん。：

(明治35年7月20日)

外見を飾るよりも、心が
錦織の布のようにきれいで
純粹であることが神の望み
との仰せです。白熱的な信
仰をもった先人といえども、
制約に捉われて外見を整え
る方向に心が流されてしま
ったのでしょうか。親神様
はそれを厳しく戒められ、
心の錦、すなわち神一条の
信念を揺るがさずに歩むこ
とを人々に求められました。
かくして四十一年に天理教
の一派独立が果たされ、そ
の二年後に婦人会が創設さ
れて、道は大きくはばたい
ていくことになりました。

■教祖からずれていないか

そんな苦難の時代から一
世紀以上を経た今日、世界
は変貌し人々の暮らしや考
え方も一変しました。また
お道を取り巻く状況も変わ
り、今はコロナ禍ではあり

ますが、教義上は何の制約
もなく活動を進めることが
できるようになりました。
誠に有り難い限りです。し
かしその代わりに現代社会
は、かつて経験したことが
ないほどの豊かさや便利さ
に加え、膨大な情報があふ
れています。それらの洪水
に流されて、神一条の信念
という「心の錦」を置き忘
れてしまわないよう、十分
注意を払わねばなりません。
婦人会の活動方針に、「元
をたずね、ご恩報じの日々
を」と示されていますが、
それは自らの信仰の道筋が、
教祖の教えからずれていな
いかどうかを反省するところ
から始まります。そして、
婦人と男性が心を通わせ合
い、各々の立場を活かし合
って、身近な人へのおたす
けに取り組むことが、思召
に合う信仰実践に他なりま
せん。男女ようぼくの一層
の成人が期待される陽春の
四月です。

【第88回】
婦人会創設に至る道を思索し
神一条の信仰信念培う日々を

少年会本愛団

第52回少年会総会

本愛団の第52回総会は3月21日、大教会神殿で開催された。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、「成人門出式」に限って開かれた。

11時、門出者10人が入場。少年会長様からのご告辞(代読)を賜った後、育成会長から一人ずつ修了証書と記念品が授与された。

安藤吉人育成会長は「これからは自分の心通りに神様のご守護くださる。教えを忘れずに、日々を過ごしてほしい」と話した。



式典終了後には、新たに育成会長に就任した大教会長夫妻に花束が贈呈された。

布教実修所で修了式

3月14日、立教184年度本愛布教実修所の修了式が行われた。

1年間の布教活動を労い、修了者一人ひとりに修了証が贈られた。立教184年度修了者

(令和4年3月14日付)

- 直轄 栗原 幸子
- 本耕(本豊田) 加藤 礼子
- 〃(〃) 梶山とき子
- 〃(本耕水) 花井富久代
- 本修徳 吉田 広子
- 本海部(本海門) 杉山久美子
- 〃(〃) 高橋 純子
- 〃(本南陽) 加藤 徹雄
- 〃(〃) 加藤みね子
- 本愛中 大橋 和代
- 〃 二井 友希
- 以上11名

2月のおさづけの理拝戴者

本愛湊 杉本 悠
以上1名

2月の初席者

本正義 金原 知哉
〃 永瀬 平
以上2名

本愛徳分教会初代会長

佐藤正康之霊の三十年祭

本愛徳分教会では2月27日午前11時より、初代会長佐藤正康之霊の三十年祭が同分教会で行われた。

本高見分教会二代会長

加藤成治之霊の十年祭

同分教会二代会長夫人加藤和子之霊の一年祭

本高見分教会では3月6日午前11時より、二代会長・加藤成治之霊の十年祭並びに、二代会長夫人・加藤和子之霊の一年祭が同分教会で行われた。

4月29日(祝)
全教一育
ひのきしんデー

大教会日誌

令和4年2月25日~令和4年3月24日

2月

- 26日 本部分次祭
- 28日 常任役員会議◇役員会議

3月

- 1日 入社祭
祭主・大教会長 扨者・和光重男、松浦道太郎
指図方・大倉八郎 賛者・安井篤、佐藤幸一郎
- 春季霊祭
祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、野田正道
指図方・安藤正二郎 賛者・大池美公雄、松原悟
- 2日 よふき会例会
- 6日 女子青年例会
- 9日 こはる会例会

- 13日 月次祭
祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、吉田克義
指図方・大倉八郎 賛者・大池美公雄、久保眞樹
◇祭典講話一大教会長
- 青年会例会
- 14日 布教実修所
おつとめ、修了式、布教実動、布教講話、振り返り、よろづよ八首
- 16日 むつみ会例会
- 17日 こども食堂MOGU (参加者60名)
- 20日 婦人会例会
- 21日 少年会本愛団第52回総会